

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」のポイント(その1)

次期学習指導要領の改訂に向けて審議が進められている、中央教育審議会初等中等教育分科会に置かれた教育課程企画特別部会において、「論点整理」が9月25日にまとまりました。今後のスケジュールとしては、令和8年度末に学習指導要領が改訂され、小学校では12年度から、中学校では13年度から実施されることが想定されます。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html

当該「論点整理」は112頁になるので、今回から4回に渡り、小中学校に関係する事項について、ポイントを絞ってお伝えします。

1. 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方(2～6頁)

(1) 学習指導要領改訂論議を貫く三つの方向性

- 以下の①～③の3つの方向性をあらゆる方策を活用し、三位一体で具現化する。

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実装
- ②多様性の包摂
- ③実現可能性の確保

(2) 「自らの人生を舵取りする力」と「民主的な社会の創り手」の育成

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた「自らの人生を舵取りする力」と「民主的で持続可能な社会の創り手」を育成するため、以下の2つを車の両輪として、教育活動を進める。

- ・ 「好き」(興味・関心)を育み、「得意」を伸ばす
- ・ 当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる

2. 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

子供たちに育む資質・能力が分かりやすく、日々の授業づくりの中で教師一人一人が使いやすいと思えるよう、「中核的な概念等」を基にした一層の構造化や様々な用語・概念の整理を図りつつ、表形式化やデジタル化により学習指導要領のインターフェイスを刷新する

(1) 中核的な概念等を活用した一層の構造化・表形式化・デジタル化(8～14 頁)

- 「知識及び技能」相互、「思考力・判断力・表現力等」の「タテ」の関係や、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の相互の「ヨコ」の関係について、学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする。

(2) 「学びに向かう力、人間性等」の再整理(15～18 頁)

- 「学びに向かう力、人間性等」は、以下の4つの要素により整理する方向で検討する。

- ・ 初発の思考や行動を起こす力・好奇心
各教科等で育成された知識及び技術、思考力、判断力、表現力等を土台として、初発的な思考や行動を起こす力
- ・ 学びの主体的な調整
自分の思考や行動を客観的に把握し認識(メタ認知)しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり、次の思考や行動に繋げたりする力
- ・ 他者との対話や協働
教師の指導を含む他者からのフィードバック、書籍等との対話、多様な他者との協働・共感や対立の乗り越え等を通じて学びを支える態度
- ・ 学びを方向付ける人間性
思考や行動を自身の豊かな人生やより良い社会に向けていく人間性

(3) 「見方・考え方」の再整理(19～21 頁)

- 「見方・考え方」の側面の一つである「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」による資質・能力の構造化によって一層具体的に示す。
- 「見方・考え方」自体は、もう一つの側面である「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化して端的に示していく。